

漢方薬 気になること？

質問一

医療用漢方薬とは？

- ・疑問や不安を医師や薬剤師に相談できる。
- ・医療医薬品として効果が認められている。
- ・一般用医薬品(薬局で直接購入できるもの)

第一類から第三類医薬品に分類

第一類は薬剤師指導のもと購入

第二類は副作用に注意が必要

第三類は、一類、二類以外の一般用医薬品

質問二

漢方薬の服用期間はどのくらい？

病状により異なります。処方された期間を守り正しく服用しましょう。

参考】漢方薬の効果判定は、通常、服薬開始後1～2週間が目安となります。

また、多くの論文を確認すると服用2か月経過後効果がでている場合があります。

副作用を検討しながら、医師、薬剤師と相談しましょう。

質問三

漢方薬のカロリーは？

1日7.5g服用した場合、約30kcal

(1g=約4kcal)



質問四

透析患者さんが漢方薬を服用する際の注意点は？

もともと腎臓機能が低下しています。

マオウや無水ボウショウを含む漢方薬には注意が必要です。

医師、薬剤師と相談しましょう。

小児の漢方薬 服用について

小児の漢方薬 服用について

通常、成人の1日量を2～3に分割し、食前又は食間に経口投与する。

目安> 2歳未満 成人の1/4以下

2～4歳未満 成人の1/3

4～7歳未満 成人の1/2

7～15歳未満 成人の2/3



小児の飲み方・飲ませ方

食前> 食事の1時間～30分前

食間> 食事の2時間後(食事と食事の間)

飲み忘れたら1回お休み、2回分を一度に飲んではいけません！

シニア世代の漢方薬 服用について

何か他の薬を服用されていますか？

シニア世代がかかえる病気(持病)や生理機能の低下は、場合によっては薬の聞き方にも影響することがあります。

薬の種類 服薬履歴 残薬はないかなど確認！

飲み方の工夫

【口内の乾燥が気になる】

【歯(義歯)に挟まる】

【喉につかえる】



・多めの水で服用する。

・白湯に溶かして服用する。

・嚥下困難には服薬補助ゼリーなどを使用。



漢方薬の相互作用について

薬の相互作用

薬には、飲み合わせがあり、その相性によっては、お互いに影響を及ぼす場合があります。

効きすぎて副作用が出やすくなったり、効きにくくなったり、効かなくなったりと、薬の併用による影響を「相互作用」といいます。
*複数の病院で数種類の「漢方薬」をだしている場合、医師と相談しましょう。

漢方薬の併用は、生薬の重複に注意

- ・特に重複注意
麻黄(マオウ)/甘草(カンゾウ)
- ・重複注意
フジ末/大横(ダイオウ)

*医師、薬剤師に確認しましょう。



併用禁忌！併用注意！

- ・併用禁忌—漢方薬「小柴胡湯」と「インターフェン」製剤
- ・併用注意—

- ①麻黄が含まれる13種類の漢方製剤と
ぜんそく薬、抗うつ薬など
- ②甘草が含まれる95種類の漢方製剤と
降圧剤、利尿剤など

*詳しくは、医師、薬剤師と相談しましょう。

含有製剤の「麻黄」「甘草」の有無や量は、添付文書、医師、薬剤師に確認しましょう。

その他、「大横」を含む漢方薬と下剤などの併用では効果が増強され(下痢)する場合があります。

漢方薬の服用について

「良薬は口に苦し」

漢方は病態や体質に合わせて処方されています。分量や期間を守って、服用することが大切です。

服用に関して、気づいたことや、不安なこと、副作用については、医師、薬剤師にご相談ください。



飲み忘れ防止

- ・時間を決める—起床したら飲む。食事の1時間前に飲むなど、生活のリズムに合わせて。
- ・カレンダーで毎日の服薬管理、スマホのリマnder管理で飲み忘れを管理。
- ・症状などを記録、スマホのメモ機能も活用。

服薬方法

- ・指示された分量を(食前)または(食間)に水または白湯で。
- ・食前一食事の30分前、1時間前、空腹時。
- ・食間—食事の2時間後(食事と食事のあいだ)
- ・味変—お湯で溶いたり、ヨーグルトなどに混ぜる。



きちんと保管！

冷所や湿気の少ないところに保管しましょう。特に、容量が異なるために、再分包されたものは、湿気などに注意。